CASBEE®かながわ

評価年月日 2011年4月1日

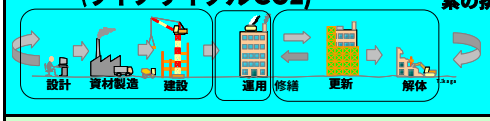
重点評価

■使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1 総合評価の結果

建物名称	(仮称) ユータカラヤ小田原高田店			
BEE (建築物の環境効率)	1	BEEランク	B+	★★★☆☆

2 重点項目への取組み度

重点項目		評価	劣る ← → よい
地球温暖化への配慮 (ライフサイクルCO2) 	地球温暖化の主因である二酸化炭素の排出量削減対策に関する項目 LCCO2(ライフサイクルCO2): 建設してから解体するまでの建築物の一生 (ライフサイクル) で使われる資材・エネルギーをCO2排出の量に換算し、足し合わせたもの	LCCO2排出率 73% 参照値 (一般的な建物) を100%とした場合のLCCO2排出量	100%超 / 80%超～100%以下 / 60%超～80%以下 / 30%超～60%以下 / 30%以下 ×1 ×2 ×3 ×4 ×5
ヒートアイランド現象の緩和	ヒートアイランド現象 (=都市部の気温が周辺部よりも高くなる現象) を緩和する対策に関する項目	スコア 3.0	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア (5点満点 平均スコア=3点)

地球温暖化への配慮		レベル	評価のポイント
LR3/1 地球温暖化への配慮		4.0	標準計算によるLCCO2(ライフサイクルCO2)排出率を評価
建設	LR2/2.1 材料使用量の削減	2	構造躯体用部材の生産・加工段階における廃棄物削減の取組みを評価
建設	LR2/2.2 既存建築躯体等の継続使用	3	既存の建築躯体の継続利用有無および範囲による評価
建設	LR2/2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	3	躯体材料へのリサイクル材利用を評価
運用	Q1/2.1.3 外皮性能	3	窓まわり、外壁、屋根や床 (特にピロティ) における室内への熱の侵入に対しての配慮の程度および庇やブラインド等の設置による日射遮蔽の程度を評価
運用	LR1/1 建物の熱負荷抑制	1.7	室内における「夏の暑さ」と「冬の寒さ」を防ぐための建物の基本性能として、断熱・気密機能を評価
運用	LR1/2 自然エネルギー利用	3	自然エネルギーの直接利用 (採光利用、通風利用、地熱利用など)、変換利用 (太陽光、太陽熱など) の導入の有無、導入の割合を評価
運用	LR1/3 設備システムの高効率化	4.9	空調・換気・照明・給湯・昇降機によるエネルギー消費量の削減対策を評価
運用	LR1/4 効率的運用	3.5	エネルギーの管理と制御によるエネルギー消費量の削減対策を評価
修繕更新解体	Q2/2.2.1 躯体材料の耐用年数	3	構造躯体などに使用する材料の交換等大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張させるための対策の程度を評価

ヒートアイランド現象の緩和	レベル	評価のポイント
Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	3	熱的な悪影響を低減する対策 (敷地内へ風を導く、緑地や水面を確保する、建築設備による排気や排熱の位置等に配慮するなどにより暑熱環境を緩和する対策) を評価
LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	3	温熱環境の事前調査、敷地外への熱的な影響を低減する対策、温熱環境悪化改善の効果の確認に関する取組み度合いを評価

関連項目	レベル	評価のポイント
LR2/1.1 節水	1	節水への取組み度合いを評価
Q3/1 生物環境の保全と創出	1	生物環境の保全と創出に関する配慮 (立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の保全、緑の量・質の確保、生物環境の管理と利用など)を評価

主な指標および効果			
$LCCO_2$の削減率 (= 1−「LCCO2排出率」)		27	%
PAL値/省エネ対策等級 (1～4) (工場用途は評価対象外)	用途①	385.7	/ 380 (物販店舗)
	用途②		
	用途③		
	用途④		
ERR (設備システムの高効率化)		34	%
自然エネルギーの利用			
太陽光利用 (太陽光パネルなど)		0	MJ / 年
エネルギー削減率		0	%
太陽熱利用 (太陽熱利用給湯システムなど)		0	MJ / 年
エネルギー削減率		0	%
その他高効率機器等 (有の場合は内容を自由記述欄へ記載)		無	

自由記述

・窓面への庇取付、室内側ロールスクリーン設置等で、入射量を　調整し、空調効率を上げている。
・高断熱建材を用いた建物の断熱化を図っている。
・建物入口に風除室を設け、空調不可を低減している。
・来店者の交通渋滞を避けるため、駐車場、駐輪場を多めに確保している。
・各作業室に水道、電気メーターを設置し、無駄を省くよう管理している。

：入力欄　　：CASBEE－新築 (簡易版) の採点結果から転記してください。